

道徳通信

愛西市立八開中学校
令和4年2月4日
青ブロック職員

📌 「本当の礼儀の意味について、考えを深めよう」～道徳「秀さんの心」を通して考えました～

職場体験で造園業の仕事を体験することになった昌雄と久志。お辞儀ひとつにしても厳しく指導する親方の秀さんに、昌雄は内心反発します。「(体験が)早く終わって、口うるさい秀さんから逃れたい」。ところがある日、昌雄の寝坊で遅刻をしてしまった二人。厳しく叱られると思い「バスが遅れて・・・」と嘘でごまかそうとした昌雄に対して、秀さんはひと言「無事についてよかった。さあ仕事を始めよう」。その後、同じ職人の伸さんから、秀さんが二人のことをとても心配していたことを聞かされます。剪定する木に対して深々とお辞儀をする秀さんの後姿を見ながら、胸が熱くなる二人。

授業では、秀さんに対する昌雄の気持ちの変化を追いながら、本当の礼儀の意味とは何かについて考えました。

●● ●●さん

確かに人のものを扱うときはいつもより丁寧になったりする。でも秀さんのような行動の仕方が人として本当に大切なものだと思った。

●● ●●さん

目上の人以外にも礼儀というものを自分から伝えるようになりたいと思った。

●● ●●さん

礼儀は誰にでも必要だと思う。どんなに結果がすごいアスリートでもファンへの礼儀が良くなかったら、応援してもらえないから。

●● ●●さん

物を大切にすることでその物の持ち主を大切にすることだと思った。

●● ●●さん

自分も、マナー講座の時は、昌雄よりの考えだった。正直、そこまでしなくても、ある程度の礼儀を形にすればいいんじゃないかと思っていた。けれど、結局心がこもっていないと行動にもその粗さは現れるから、心からというのが大事なのかなと思った。

●● ●●さん

ただ礼をするだけでなく、される側(敬意をはらわれる側)の気持ちになってみようと思った。社会に出ても礼儀は必ず使うものだから、本当の礼儀についてもっと考えてみようかなと思う。

●● ●●さん

礼儀正しくという言葉がよくあるけど、何が正しいのだろうと思う。人によって礼儀の捉え方も違うし考え方も違うから。最初は自分をよく見せる物だと思っていたけど、それもあつつつ成長するものの一つのように感じた。

●● ●●さん

最初は木なんかには礼儀なんてしないだろうと思っていたけれど学習していくうちに色々なものに敬意を持たなければならないということがわかった。

●● ●●さん

礼儀とはどんな人やものであっても気持ちを込めて敬意をはらうことだと思う。なのでこれからは授業のはじめ、おわりのときは礼儀を意識して挨拶しようと思う。

